

かがやけ! 憲法、守ろう! いのち2025

憲法9条の会つくば 20周年記念のつどい

「戦後80年、憲法をどう伝えていくか」

● 監督 講演

「誰がために憲法はある」

● ドキュメンタリー映画上映

井上淳一

映画上映と講演

映画監督



井上淳一（脚本家・映画監督） 若松孝二監督に師事し、若松プロダクションにて助監督を勤める。●「青春ジャック 止められるか、俺たちを2」（2024、脚本・監督）、「映画芸術」誌ベストワン、日本映画プロフェッショナル大賞で作品賞と監督賞。●「福田村事件」（2023）プロデューサーとしてエランドール賞奨励賞、脚本家として日本アカデミー賞優秀脚本賞。●「誰がために憲法はある」（2019）第25回 平和・協同ジャーナリスト基金賞奨励賞。

2025. 10.11 (土)

13:30-16:30（開場13:00）

つくばカピオホール

茨城県つくば市竹園1-10-1

● 太鼓演奏	13:25 - 13:35
● 総 会	13:35 - 14:05
● 映画上映	14:05 - 15:15
● 講演（質疑応答含む）	15:25 - 16:25

● 料金: 1,000円

● 学生無料

● 障がい者手帳お持ちの方と介助者1名無料

[連絡先]

石上: 090-6470-3958 長田: 090-7845-6599

穂積: 090-6492-5378 阿部: 080-4795-1059

E-mail: maniabe@mail2.accsnet.ne.jp



主催: 憲法9条の会つくば

<http://peace.arrow.jp/tsukuba2/>





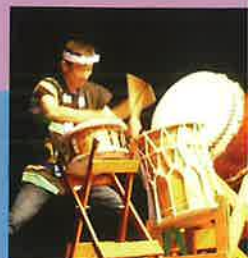
ドキュメンタリー映画「誰がために憲法はある」

初恋を胸に語り継いだ8月6日。原爆朗読劇の全国巡演を続けてきた女優陣たちが語る戦後、そして未来へ託す思いとは——子どもから大人まで、日本国憲法について考えるきっかけとなるドキュメンタリー。

2019/カラー/69分 監督:井上淳一 「憲法くん」作:松元ヒロ 出演:渡辺美佐子、高田敏江、寺田路恵、他 配給:太秦

オープニングアクト 太鼓演奏:片平博さん

和太鼓歴34年。つくば9条の会では第3回から第10回まで連続して開演太鼓を担当。「今回、久しぶりの晴れ舞台ですので、張り切って演奏したいと思います。」



戦争NO!
9条で
平和外交を!

実行委員長 挨拶

穂積妙子

今年2025年は戦後80周年です。憲法9条の会つくばが設立から20年を迎えた記念の年でもあります。

20世紀は戦争の時代でした。21世紀こそ平和な時代に、との期待を持って迎えた新世紀でしたが、ウクライナやガザでの戦争が始まり長引き、無実の市民、子どもたちが尊い命を落としています。しかしこれらは対岸の火事ではなく、アジアでも台湾有事や中国の海上進出を口実に、米軍と自衛隊の増強、南西諸島の軍事化が急ピッチで進められています。

まるで日本には戦争放棄の憲法9条などないかのような政府のふるまいに心が締め付けられる毎日です。

しかしこの20年間、私たちは地域の小さな戦争への芽を見逃さず9条の旗を掲げて活動してきました。草の根の活動が戦争への道を阻むと確信しています。現在県内には地域9条の会が約22箇所あります。9条の会の活動を若い世代に繋げることが喫緊の課題ですが、県内の平和を願う諸団体とも協力し戦争への道を阻むことに全力を尽くします。

井上監督のメッセージ

例えば、特定秘密保護法。例えば、安保法制。例えば、共謀罪。安倍政権下で数の力によって次々と強行採決された、これらの法案に対して、ただ指を咥えていたワケではない。国会前にも行った。SNSでも発信した。でも、自分の生業である映画では何も出来なかった。映画を企画し、内容を考え、お金を集め、撮影して、公開するまでには、どんなに早くとも一年はかかる。現実のスピードに全くついていけない。「映画を武器に世界と闘う」とは我が師・若松孝二監督の言葉だが、映画では闘いようがなかった。

しかし、改憲だけはそんなに簡単に進まない。当時、安倍晋三は2020年に改憲すると言って憚らなかった。ならば、それまでに憲法の映画を作ってやろう。そう思って作ったのが、『誰がために憲法はある』だ。この映画は2019年の憲法記念日の直前に公開され、この手の映画としてはヒットした。各地で自主上映に

も呼ばれ、多くの人に観てもらった。ただ、それでも、残念ながら、この映画は「届く人」にしか届いていないのではないのか、という忸怩たる想いを消すことが出来ない。本来、表現とは意見を異にする人や自分の意見を持ってない人の心を揺さぶるものでなければならない。しかし、この映画は「戦争はダメだね」「九条は絶対に変えちゃいけないよね」と思っている人たちが「ああ、やっぱりそうだ」と自己確認するだけのものにしかっていないのではないのか。

本当に届けたい人にはどうすればいいのか? どういう言葉を持てばいいのか? あれから6年。答えはまだ見えない。戦後80年。戦争を体験した世代が減り続ける中で、我々は届かない人に届く何かを見つけられるのか。この映画とこの会がその小さな足がかりになればと願ってやみません。

プロフィール

1965年愛知県生まれ。早稲田大学卒。大学在学中より若松孝二監督に師事し、若松プロダクションにて助監督を勤める。90年、「パンツの穴・ムケそでムケないイチゴたち」で監督デビュー。その後、荒井晴彦氏に師事し、脚本家に。2013年、「戦争と一人の女」で監督再デビュー。数多くの海外映画祭に招待される。16年、福島で苦悩する農家のドキュメンタリー「大地を受け継ぐ」を監督。フィクション、ノンフィクション、監督、脚本に関わらず、幅広い活動を続けている。



カピオホール [交通のご案内]

電車: TX つくばエクスプレス「つくば駅」下車
(秋葉原から快速 45 分)

A3 出口より徒歩 10 分

車: 常磐自動車道、桜土浦 IC より約 15 分
近隣の有料駐車場をご利用ください